

姫恋高校 視察報告

小久保 利佳

学生寮整備の 取組を学ぶ

群馬県北部に位置する県立姫恋高校を視察しました。目的は、村外・県外から生徒を受け入れるために整備された学生寮の取組を学ぶことです。姫恋高校では、平成30年頃から入学生徒の減少に加え、地域の特徴あるスポーツであるスピードスケートの競技人口減少が課題となっていました。競技を続けたい生徒を受け入れる環境を整えるため、村は学生寮「あさま寮」を整備し、探究アスリートコースの生徒を支えてきました。

全国から生徒を 迎える仕組み

応募者の増加に伴い寮は増築され、さらに令和7年度からは県・村・高校が連携して「地域みらい留学」に参画し、新たに未来創造コースを設置して全国から生徒を募集しています。現在は、あさま寮に加え、隣接する村営住宅の一部をリフォームし、未来創造コースの生徒も受け入れていきます。



地域みらい留学

学校の存続は 地域の課題

背景には、高校だけの問題にとどまらない地域の切実な事情がありました。姫恋村民や高校生が利用するJR吾妻線の存続、県内で学校の統廃合が進むなかで姫恋高校を特色ある高校として残したいという強い思いです。

視察を通じて 感じたこと

案内してくださった未来創造課の村職員の方と姫恋村議会議長からは、今後も学生寮のさらなる整備を検討しており、特に食事の提供が重要であるとの説明がありました。

あさま寮で生徒に食事を提供している寮母さんは、もともと下宿の経験があるご夫婦で、お話からは仕事を超えた生徒への深い愛情が伝わってきました。生活の場である寮は、単なる宿泊施設ではなく、安心して学び、挑戦するための大切な支えになっています。

今回の視察を通じ、「学校の存続」が「地域の存続」と深く結び付いていることを改めて実感しました。過疎化や少子化が進む地域において、学校は教育の場にとどまらず、地域の大人が子

供たちを支え、見守り、地域の未来をつくる拠点となっています。

高校の存続は地域全体の活力を維持するための重要な条件であり、教育への投

資は持続可能な地域づくりそのものです。

当村においても、子供たちの学びと暮らしを地域全体で支える視点を大切にしていきたいと感じました。



▲探究アスリートコースの留学生在生活する「あさま寮」